

令和7年度 第1回田原市図書館協議会議事録

日時：令和7年5月15日 午前10時～午前12時

場所：田原文化会館204会議室

出席者：協議会委員9名

（峠、西江、家禰、渡邊、一ツ田、内浦、小澤、北原、永田）
事務局3名（是住、彦坂、辻）

議事内容

- ・開会
- ・館長あいさつ
- ・委員長の選出
- ・協議
 - 1) 前回の議事録の確認について
 - 2) 令和6年度田原市図書館事業評価（案）について（資料1、資料2）
 - 3) 令和7年度田原市図書館事業計画（案）について（資料3）
- ・その他
 - ・田原市総合教育大綱、田原市教育振興基本計画、まち＊ほん生涯読書振興計画の改定について（資料4）

事務局：本日は、お忙しいところ、ご出席くださりまして、ありがとうございます。ただいまの出席委員は9名です。過半数に達していますので、令和7年度第1回田原市図書館協議会は成立いたしました。これより開会いたします。

では、開会にあたり館長から挨拶をお願いします。

館長：本日はお忙しい中、図書館協議会にご出席いただき、ありがとうございます。今年度、初めての図書館協議会となります。4月の人事異動で先生方の異動がありました。今年度から峠校長先生と西江先生にお世話になります。このあと紹介がありますので、合わせてよろしく申し上げます。

さて、世間では物価高で何でも高くなってきています。図書も毎年2%ずつ程度新刊本が値上がりが続けています。その分資料費が増えると良いのですが、そうもいかないため、買うことのできる本の数が減っている状況です。絵本も随分高くなってきています。小さなお子さんがいる若い世帯ではなかなか図書を買うことも難しくなっていて

ると思います。節約本を見ていると、よく図書館の利用が推奨されています。図書の購入代金の節約だけでなく、光熱費が高騰していますので、冷暖房が必要な時期は図書館で過ごすようにしている人もいます。先日の三河公立図書館協議会でも、貸出冊数は増えないけれど、入館者数が増えているということが多くの図書館で報告されましたが、そのような使われ方もしているのかもしれませんが。

本日は、昨年度の図書館事業の評価と今年度の事業計画についてご審議いただく予定です。資料のボリュームも多くて聞くのも大変かと思いますが、ぜひ今回もたくさんご意見をいただければと思います。よろしくお願いいたします。

(新任委員の紹介)

令和7年4月1日の人事異動等により河合祐委員と本多充弘委員の後任として、新たに委員の方2名が任命されました。

任期は、前任者の残任期間である令和8年11月30日までです。

ご紹介いたします。

田原中部小学校の峠 尚良（とうげ たかよし）先生と若戸小学校の西江 佳子（にしえ よしこ）先生です。よろしくお願いいたします。

では、峠先生と西江先生から一言ずつごあいさつをお願いします。

峠委員：中部小学校の峠です。図書館協議会委員は今回が初めてでございますので、よろしくお願いいたしますと思います。私自身は、田原市の図書館はもちろんですが、豊橋、幸田、岡崎の図書館も使っておりまして、それぞれの良さがあるものですから、そういったところも田原の図書館、それから学校の図書館がより良いものになっていけばいいなと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

西江委員：若戸小学校の西江佳子と申します。田原市の図書館では、読書感想文コンクールに去年参加させていただいていました。私自身は10歳、小学校5年生の子供がいますので、図書館も小さい頃はよく利用していました。最近足が遠のいていますが、またここで色々学んで、私自身も利用していきたいと思っています。よろしくお願いいたします。

事務局：ありがとうございました。ここからは副委員長である内浦委員に議事の進行をお願いします。

(委員長の選出)

副委員長：それでは、委員長の選出について、議題といたします。田原市図書館の管理運営に関する規則第20条の規定により、委員長は、委員の互選により選出するとなっています。ご意見ございませんか。

委員：峠先生にお願いできればと思います。

副委員長：峠委員に委員長をお願いすることで皆様ご異議ございませんか。

(異議なし)

ありがとうございます。異議もないようでございますので、峠委員に委員長をお願いいたします。ここからは委員長に議事進行をお願いいたします。

委員長：それではよろしく申し上げます。協議事項1「前回の議事録の確認について」事務局から説明をお願いします。

館長：今回の開催通知に前回の議事録案を同封させていただいておりましたが、修正事項等、気になる所がございましたら教えていただければと思いますが、いかがでしょうか。

(特になし)

では、この内容で図書館ホームページの図書館協議会のページで公開させていただきます。

委員長：それでは、次に、協議事項2「令和6年度田原市図書館事業評価(案)」について事務局から説明をお願いします。

館長：(配布資料に基づいて説明)

委員長：ご質問とご意見がありましたらお願いします。

委員：データベース利用件数が増えたのは、成章高校との連携という部分でデータベースを使う課題が出たという事ですが、データベースを使ってもらえるように学校と連携を強めていったら、課題達成できるかと。利用を増やす方法としては有効な形だと思う。

館長：家で新聞を取ってない家庭も増えてきているので、データベースで表示された紙面をどう見たらいいのかが分かりづらそうにしている高校生がいたと聞いている。新聞に触れる機会をこれから作ってあげれば良いと思う。

委員：3ページの1番最後の学校図書館の電算化のところ。これは私たちもずっと言ってきたいて、ようやく実現したという事で、その評価はまた来年度に出てくると思うが、現時点で図書館司書の労働軽減とか、学校の現場の先生方の変化はあったのか。

館長：今はまだ本格的にスタートさせるために、学校司書が未登録のデータを登録したりと、一時的に作業負担が増えているが、それが落ち着けば、効率化が実現できると思われる。学校司書や先生が公共図書館の本の貸出を依頼する時も今までファックスだったのが、インターネットで要求することができるので、やりやすくなる。

委員長：既に導入された市で働いたことがあるが、かなり楽になると思う。蔵書点検も含めて、いろんな面でかなり楽になる。子供だけじゃなくて教員も含めて検索なども活用しやすいし、利用も増えていくのでは。

委員：8ページの男性ボランティアについて、一ツ田委員も活躍されているそうで、その内容を教えてほしい。

委員：男性ボランティアの参加が少ないということだったので、男性の、特に定退職年された方で時間持て余している方が多いので、図書館の課題とその定年された人の課題をマッチングすると一挙両得になるんじゃないかということで、何かできればと。それで前々から図書館が図書の修理が課題ということだったので、定年された方に修理を手伝ってもらい流れができないかということと、プラスで違う図書館の課題をお手伝いしてもらいし、今年度実施できるような、そんな目標を含めている。

委員：ボランティアの募集をするわけか。

館長：普通に募集しても、あまり来ないんじゃないかということで、募集もするけれども、この人という方をお誘いしながら口コミでの広がりも期

待するような方法を検討している。ボランティアという名称も良くないのではという話もある。今、2人トヨタのOBに来ていただいて色々お話を聞いている。その方たちのやってもいいかなと思う内容も聞きながら進めていきたい。

委員：自分の調べたいことをAIに投げかけて、データのアクセス方法とかそういうのを調べるということが常態化していると聞いた。そのような視点でレファレンスサービスにAIを利用した調べものがあるというアプローチは無いのか。

館長：AIを上手く使って仕事の効率化を行ったりということはあるが、図書館ではまだAIの使い方講座などは実施していない。教育という面では、やろうと思えば読書感想文もAIで簡単に書けちゃう。でも、それだと本来の読書感想文を書く意味がないということもある。教育で使うのは慎重にやっている。一般の人の調べものでもAIは平気でウソをついたりする。やはりAIの回答の出典はどこなのか、信頼できる情報なのかを見極める情報リテラシーを身につける必要がある。

委員：AIのデータ処理能力がすごいので、使えるものは使って使わない方がよい場面では使わないなどの取捨選択が必要だ。Instagramなど使い方を誤れば危険なこともある。

委員：アメリカの学校図書館のメディアリテラシー教育では、2010年代から計画や法制化が進んでいて、スクールライブラリアンを中心に、メディアをどう読み解くかが研究されている。AIの間違いをどう読み解くかなど、公共図書館での情報のバイアスなどのリテラシー講座などは今後日本でもやっていくべき。

事務局：実際にチャットボットが回答した資料の所蔵が無いかを利用者から聞かれた。実際にはそのような資料は存在しなかったが、無いことを証明するのが大変だった。

委員：AIを使う人間の能力を高めないといけない。より上手に使う方法をサジェスチョンすることが必要。

委員：リサイクル・ブック・オフィスの利用者アンケートについて、みなさん

忙しくて回答数が少なかった。どうすればもっと利用者の声を集められるのかが課題だと感じている。店番をしているボランティアが聞いた利用者の声を蓄積した方がよいかもわからない。たくさんの本の寄贈を持ってくる人もいる。

館長：寄贈に助けられているところもある。特に漫画については、アンケートでも「漫画があってすごくいい」と言っている。私たち職員も、利用者からクレームや逆にお褒めの言葉をいただいた場合は、エクセルシートに記録して共有している。ボランティアさんたちの日誌にそのような利用者の声を書いていただいて図書館職員と共有していただくと助かる。

委員：寄贈はたくさんあったら困るのか。流行っている新刊だったら良いのか。

館長：予約がたくさん付くような人気の新刊本の寄贈は有難い。同じ本を何冊も買えないので、寄贈でいただくと各分館に振り分けて受入して予約した人に早く借りていただくことができる。

委員：寄贈をしてくれる人がたくさんいることが他の市民にも伝わると良い。もらって嬉しい条件を提示した方が、市民にとっては分かりやすいのでは。図書館に来たくなる仕掛けづくり、ファンづくりという面では、流行りの本を寄贈も含めて積極的に受け入れて貸出の回転をまわすことが大事では。

委員：寄贈してほしい本のリストを提示している図書館もある。ベストセラーや地域に関する貴重な資料などがリストアップされている。

館長：このような本の寄贈をしてもらえると助かるという案内を作成することを検討する。

委員長：次に、協議事項3「令和7年度田原市図書館事業計画（案）」について事務局から説明をお願いします。

館長：(配布資料に基づいて説明)

委員：4ページの赤羽根図書館の複合化について、市民のための図書館にするにはどのような方法がよいのか。ただハードだけ作ればよいものではなくて、ソフト面が一番重要。今回、予算が付いた基本設計が来年の3月まで続いて、次の段階に進むとのことだが、どのように進んでいくのか不安がある。

館長：建築までの流れについては、今年度に基本設計、来年度に実施設計、そして再来年度に建築という流れで進んでいく予定。今年度実施する基本設計についてはその前段階で、基本設計を行うための材料となる基本的な考え方を図書館と市民センターで検討を行ってきた。その中には赤羽根地域での意見交換会やワークショップでいただいた市民の意見を踏まえたうえで文章を作成し、業者はそれを参考に設計をしていく。

委員：このような協議会で、不安であるなど、住民としての素直な気持ちを発言できることは大事だ。

委員：本音を言いにくい、相手に合わせなければいけないという場面が多く、そのような大人を子どもたちは見ている。行政は、会議などでも参加者が本音を言える雰囲気づくりをしていくことが大切だ。

館長：今年度実施する「対話ファシリテーター養成講座」も安心安全な対話の場づくりが出来る人を増やすことが目的である。図書館も本音で安心して対話できる場所となることを目指したい。

委員長：ありがとうございました。他にご質問もないようですので、以上で協議事項を終わります。次に、「その他」ですが、事務局から何かございますか。委員の皆さんから何かございましたらお願いします。
以上で、本日の議事は全て終了しました。ご協力ありがとうございました。これをもって、令和7年度 第1回田原市図書館協議会を閉会させていただきます。